

## 保護者向け啓発活動の実践

### 活動を行うタイミング

学校が取り組んでいる情報モラル教育の概要や家庭での携帯電話やインターネットの使い方について、保護者に協力していただきたいことは、年度当初に行われる保護者会などで伝えるとよいでしょう。その上で、保護者と連携した教育活動を行うための啓発活動を年間行事計画に位置づけ、**毎年実施すること**が理想です。小中連携した取り組みも検討することをお勧めします。

また、活動を行うにあたっては、保護者会の前の参観授業で、「親子で考える情報モラル」のような授業を行った上で活動するとよいでしょう。

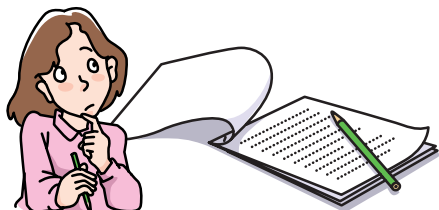
### 活動を行う上での意識

携帯電話やインターネットの不適切な使い方から生じるトラブルについて、保護者に理解してもらうことを最初のねらいにするとよいでしょう。使いようによっては、児童生徒が加害者にも被害者にもなりかねない「物」を児童生徒に持たせているという**「危機感」を保護者の方に抱かせるような流れ**を組むとよいでしょう。

また、「うちの子に限って…」とか「あの事例は都会で起こったこと。こんな田舎の学校なら大丈夫だろう。」などの思いを保護者に断ち切ってもらうようにすることも大切です。

### 保護者向け講習会の事前準備

**アンケートの実施**…事前に保護者と児童生徒の双方にインターネットや携帯電話をどのような状況下で、どのくらい利用しているかをアンケートで調査し、「保護者向け啓発活動」の冒頭で実態を示すとよいでしょう。



### 保護者向け講習会実施・そのポイント

#### ①インターネット利用のメリット、デメリット

携帯電話やコンピュータによるインターネット利用

の一般的なメリット、デメリットを伝えます。そして、児童生徒が大人になる頃にはネット利用があたりまえの時代になることも伝えます。

#### ②インターネット利用の教育的価値

学校での**インターネット利用の教育的価値**を示します。同時に、学校はフィルタリングソフトで教育上不適切な情報を遮断するよう対策を取っていることや、情報モラルの指導も行っていることを説明しましょう。

#### ③アンケート結果

アンケート結果を示します。特に、例えば、携帯電話の利用が「電話としての利用」より「メールの利用」のほうが圧倒的に多いことなど、ポイントとなるようなことは強調したほうがよいでしょう。

#### ④保護者向けのアンケート結果

保護者向けのアンケートの結果も示し、その中で児童生徒の結果と比較して示すことが大切です。保護者は児童生徒に指導しているつもりでも、児童生徒は全くわかっていないという実態が見えてくるからです。

#### ⑤ネット利用のトラブル・事件

家庭での携帯電話やコンピュータによるネット利用によって巻き込まれてしまったトラブル、事件などがあれば示します。可能な範囲で、自校や近隣の学校で起きた事件を取り上げれば、切実感を保護者に持ってもらうことが期待できます。

#### ⑥学校で行っている指導の内容

学校で行っている指導の内容を説明します。特に**情報モラル指導の部分は強調**すべきです。

#### ⑦学校でできることと保護者が行うべきこと

学校での指導には限界があり、家庭の協力が必要であることを話します。そして、「ここまでが学校で指導できること・すべきこと」、「**ここからは家庭での保護者の指導・支援が必要なこと**」と、情報モラルの問題について指導や啓発すべき点に関する役割分担の範囲を伝えます。例えば、携帯電話の取り扱いについて、持ち込みを禁止している学校においては「学校では生徒指導上、携帯電話を学校へ持ってくることを禁止しています。」ということを見せながら、「保護者は『そもそも、何のために携帯電話を児童生徒に持たせるのか。』を児童生徒といっしょにしっかり考え、検討し、児童生徒への啓発を行ってほしい。」ということを保護者に伝えます。